

網大漁

く歩谷長

九十九里浜に面した市内の地域では、かつて地引き網などの漁業が盛んだったとされています。しかし残念なことに、その様子を伝える資料は乏しく実態を知ることができません。

千葉県立関宿城博物館の企画展「鯛は弱いが役に立つ」（平成29年秋開催）で、長谷地区星宮神社の「地引き網図絵馬」が紹介されたと聞き、今回それを拝見できました。

絵馬の大きさは縦82cm、横154cm、図録によると、「房総沖に地引き網絵馬は数多いが、網主と地引き網に関係する漁夫たちが奉納している点が興味

深い」とされます。

奉納は1897（明治30）年11月25日、絵馬の右端に「奉納◎網大漁」その下部分に網主名、左下部分に「沖合」、「マカナイ」、「水カケ」、「ナカノリ」、「ヤナバ」各1名、「船頭」4名の名前に加え「外水夫85名」と書かれており、合わせると95人となります。

これらのすべてが長谷村の人たちとすると、共興村が誕生した1889（明治22）年の長谷村は160軒、約6割が絵馬の奉納に関係したことになります。

この絵馬の特徴は「漁夫たちの役職名が分かる地引き網絵馬」（「図録」）とされ、図には海岸沿いのはるか向こうまで地引き網の漁船が並び、手前では水揚げした鯛が広げられ干鯛にされている様子が描かれています。

大漁の願いは、吉崎地区星宮神社に1784（天明4）年と1862（文久2）年に「海上安全 水主繁盛」と刻まれた石灯籠が奉納され現存しています。それに加えこの地引き網図絵馬も漁業が盛んだったことを伝える貴重な遺物といえるでしょう。

星宮神社拝殿には前号で紹介した「日光参拝」の絵馬と同様に、明治30年代以降から戦前にかけての「善光寺日光山参詣同行」の絵馬や「関西四国房州参拝記念」などの写真が多く奉納されています。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

星宮神社の地引き網図絵馬

